＜先週の説教から＞

『イエス様の裁きの基準』

遠藤歓二　牧師

マタイによる福音書　２５章　　３１～４８節

最後の審判において永遠の命を賜る人々は、イエス様から「お前たちは、わたしが飢えていた時に食べさせ、喉が渇いていた時に飲ませ、旅をしていた時に宿を貸し、裸の時に服を着せ、病気の時に見舞い、牢にいた時に訪ねてくれたからだ」と仰られています。しかし、そのように言われた彼らは、自分たちがそのようなことをした自覚がないのです。

これに対して、永遠の罰を受ける人々は逆です。彼らは「主よ、いつ、私たちは、あなたが飢えたり、渇いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられるのを見て、お世話しなかったでしょうか？」と言っています。彼らにはそのようなことをしなかったという自覚はありません。つまり、彼らはイエス様に仕え、従って来たという自覚は持っており、彼らは信仰者だということです。ところが彼らは、目の前にいる一人の小さな者、弱く貧しく助けを必要としている人に、手を差し伸べることをしなかったのです。イエス様は「最も小さな者の一人にそれをしなかった者は、私に何もしてくれなかった」と言われて、彼らは永遠の罰を受けることになるのです。このマタイ福音書において問われている大切な問題は、イエス様との良い関係を保ち続け、終わりの日の審きに備えることが、永遠の命か、永遠の罰かの分かれ道であるということです。本日与えられた箇所のポイントは、イエス様を信じ、洗礼を受けて教会の枝となり、信仰生活を送った人が救われ、そうではない人は滅びるとは語られていないところにあります。永遠の命を賜り、救われる人々は、イエス様に対し、何らかの奉仕をしたという自覚を持っていないのです。彼らがしたのは、目の前の一人の小さい、弱い、貧しい、助けを必要としている人に手を差し伸べ、親切にしたということです。

信仰者でもなければ、教会の礼拝に集うことのない人が信仰によることなしに行った一人の小さな弱い、貧しい人に対する愛の行いを、御自分に対することとして「私にしてくれたこと」として受け止めてくださり、それによって、その人が意識していなくても、その人とイエス様との間に良い交わりが築かれ、永遠の命へと受け入れてくださる恵みを語っていると読めるのです。私たちが最後の審判において、滅びではなく、救いを賜る者とされるとしたら、それはそのようなイエス様の恵みによってでしかないと考えられるのです。だとすれば、信仰者でない人々に同じ恵みが与えられても不思議ではありません。

私たちキリスト者は、信仰者であるがゆえに、救われるのではなく、イエス様の恵みによって救われることを知っているからこそ、信仰者であるのです。ですから、イエス様がその恵みを、信仰者でない人々にも及ぼしてくださるとしても、少しも不思議なことではないのです。

（文責：遠藤歓二先生）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．２月５日（水）20：00
　　Ⅱ．２月６日（木）10：30
聖書研究：　ローマの信徒への手紙
祈祷主題：　信教の自由を守る２・１１集会を覚えて
担当者：　（水）松田　（木）兼川
祈りに覚える人：　三箇さん　鄭さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男 18　女 39　計 57
祈祷会　Ⅰ.男４　女２　計６　Ⅱ.男１　女７　計8
日曜学校　　幼稚科５　小中科４　計９

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週礼拝】　２月　９日（日）

聖　書：　レビ記　１３：１～８，４５～４６
　　ルカによる福音書　５：１２～１６
説　教：「ルカ㊱―本当の癒しとは？」
　　武田 真治 牧 師
讃美歌：５４(1)、３２、３９４、４１９、５１０、
　　８３(1)

【次週当番表】

司式:保坂長老　奏楽:勝村　礼拝:齋藤長老
献金：阿部　阿部　受付：鈴木　橋本
会堂準備：飯島　岡本　金刺　中村
　　森本
看板：岩佐　週報：金刺　お花：茨木

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会　・求道者会
礼拝後：・お茶の会　・牧師と語る会
　　・壮年/婦人/ダビデ 各会

週　報

2024 年度　教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

２０２５年　　２月　　２日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/